

難防除害虫に効く

# コテツ®フロアブル

® = BASF社の登録商標

- 登録作物が多い
- 幅広い害虫種に優れた効果
- 同時防除に最適

## ■ 適用害虫と使用方法

\* 本剤及びクロルフェニルを含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍) または使用量	使用量 (ℓ/10a)	使用時期	使用回数*	使用方法					
りんご	キンモンホソガ、ナミハダニ、ハマキムシ類、ミノガ類	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布					
	ヨモギエダシヤク、リンゴサビダニ	2000~4000									
もも	ミカンキイロアザミウマ	2000									
	モモハモグリガ、カンザワハダニ、ナミハダニ、モモサビダニ、ウメシロカイガラムシ	2000~4000									
ネクタリン	ミカンキイロアザミウマ	2000									
	ナミハダニ、カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマ、オウトウショウジョウバエ、ウメシロカイガラムシ	2000									
おうとう	チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ、ミカンキイロアザミウマ、ブドウサビダニ、ハマキムシ類	2000~4000									
	ナミハダニ、カンザワハダニ、ハスモンヨトウ、トビイロトラガ、モンキクロノメイガ、ミノガ類、コガネムシ類、ブドウハモグリダニ	2000									
ぶどう	ナミハダニ、カンザワハダニ	2000~4000									
	カキノヘタムシガ、イラガ類、アザミウマ類、カキサビダニ	2000~3000									
かき	ナミハダニ、カンザワハダニ、ニセナシサビダニ	2000									
	ヨモギエダシヤク、チャノキイロアザミウマ	2000~4000									
かんきつ	ヨモギエダシヤク、ハスモンヨトウ、リュウキュウミカンサビダニ、カネタタキ、スグリソウムシ	2000~6000									
	アザミウマ類(ネギアザミウマを除く)、チャノホコリダニ、ミカンサビダニ	2000~6000									
いちじく	ヒラスハナアザミウマ、カンザワハダニ、 <b>ショウジョウバエ類</b>	2000	100~300	収穫前日まで	2回	散布					
	オウトウハダニ、ウメシロカイガラムシ、 <b>イラガ類</b>										
小粒核果類	キウイヒメヨコバイ、コガネムシ類										
キウイフルーツ	チャノキイロアザミウマ										
マンゴー	カンザワハダニ										
ゴレンシ	イラガ類、オウトウショウジョウバエ										
ブルーベリー	ハダニ類、ノメイガ類										
あずき	ハダニ類										
豆類 (未成熟、ただし、さやいんげん、さやえんどう、実えんどうを除く)	ハダニ類、ハスモンヨトウ										
実えんどう	ハダニ類、アズキノメイガ										
さやいんげん	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類、ウリノメイガ、ウリハムシ										
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類										
うり類(漬物用)	ミナミキイロアザミウマ										
すいか	ハダニ類、オオタバコガ、ウリノメイガ	4000									
	ミナミキイロアザミウマ	2000	2000	収穫前日まで	2回	散布					
にがうり	オオタバコガ、ミカンキイロアザミウマ、ナミハダニ、トマトサビダニ										
かぼちゃ (日本かぼちゃ)	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、チャノホコリダニ、ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、テントウムシダマシ類										
トマト	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、オオタバコガ、ハダニ類										
なす	ヒラスハナアザミウマ										
ピーマン	2000						2000	収穫3日前まで	2回	散布	
とうがらし類 (ししとうを除く)											コナガ、アオムシ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハイマダラノメイガ
ししとう											アオムシ
キャベツ											コナガ
ブロッコリー											コナガ
茎ブロッコリー		ハスモンヨトウ									
カリフラワー		ハスモンヨトウ									
メキャベツ		コナガ									
非結球メキャベツ		コナガ									
なばな類		コナガ									
はくさい	コナガ										
非結球あぶらな科葉菜類 (ごまつな、チンゲンサイ、なばな類、非結球はくさい、非結球メキャベツを除く)	コナガ										
チンゲンサイ	アオムシ、コナガ、ハクサイダニ										
ごまつな	アオムシ、コナガ										
非結球はくさい	アオムシ、コナガ										
だいこん	アオムシ、コナガ、ダイコンサルハムシ										
かぶ	コナガ、ナモグリバエ、ヨトウムシ										
みょうが(花穂)	ハダニ類										
みょうが(茎葉)	ハダニ類										

作物名	適用書虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	使用回数	使用方法
いちご ねぎ オクラ レタス モロヘイヤ あしたば やまのいも やまのいも(むかご)	ハダニ類、ハスモンヨトウ、シクラメンホコリダニ、ミカンキイロアザミウマ	2000	100~300	収穫前日まで	2回	散布
	シロイチモジヨトウ、ヒョウタンゾウムシ類、ネギハモグリバエ、ネギコガ			収穫7日前まで		
	ハスモンヨトウ、オオタバコガ			収穫前日まで	1回	
	アザミウマ類			収穫7日前まで		
	ウドノメイガ			収穫前日まで	2回	
	カンザワハダニ、ナガイモコガ			収穫3日前まで		
	ハスモンヨトウ、ハダニ類			収穫前日まで	2回	
	ヨツモンカメノコハムシ、シロイチモジヨトウ			収穫7日前まで		
	カンザワハダニ、ハスモンヨトウ			収穫3日前まで		
	アスバラガス			ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、 ジュウシホシクビナガハムシ、ヨトウムシ	100~500	
ふき	ハスモンヨトウ、ハダニ類	2000	収穫7日前まで			
ふき(ふきのとう)	ヨトウムシ、ハダニ類、カメノコハムシ		収穫90日前まで	1回		
てんさい	ヨトウムシ	収穫7日前まで				
セルリー	ヨトウムシ、キアゲハ、ヒョウタンゾウムシ類	100~300	収穫前日まで	2回		
にんじん	ヨトウムシ、キアゲハ、ヒョウタンゾウムシ類	*3 収穫14日前まで	1回			
みつば	ハスモンヨトウ	収穫21日前まで		2回		
みしまさいこ		収穫3日前まで				
エンサイ		収穫7日前まで	1回			
コリアンダー(葉)		収穫14日前まで				
やなぎたて		収穫前日まで	2回			
つるむらさき		収穫前日まで				
しゅんぎく		32	3.2	*4 散布		
しょうが		ハダニ類、ヨトウムシ	2000	収穫7日前まで	3回	
葉ごぼう		ミナミキイロアザミウマ		収穫前日まで		
すいぜんじな		ハダニ類	2000	収穫3日前まで	2回	
よもぎ	ハダニ類	収穫14日前まで				
葉にんにく	ハダニ類	100~300	収穫前日まで	3回		
つわぶき			収穫90日前まで			
とうきゅう			親株養成期 但し、収穫90日前まで			
たらこのき			根株養成期 但し、収穫75日前まで			
はまぼうふう(葉)			2葉期まで 但し、収穫14日前まで			
うど	シクラメンホコリダニ	4000~6000	2葉期まで	1回		
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコナダニ	200~700	収穫7日前まで			
さんしょう(果実)	チャノキイロアザミウマ	4000	収穫前日まで	散布		
とうもろこし	ハダニ類、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ	2000	収穫前日まで			
ヤングコーン	ハスモンヨトウ、ヨトウムシ類、ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ		100~300		収穫14日前まで	
食用プリムラ	ミカンキイロアザミウマ、ヨトウムシ類、ハダニ類				収穫3日前まで	
食用金魚草			ミカンキイロアザミウマ、ヨトウムシ類、ハダニ類		200~400	2回
食用なでしこ	摘採7日前まで					
食用エキザカム	100~300		収穫3日前まで			
食用せんにちゆう	150~300		発生初期			
食用トレンシア	200~700					
食用パンジー	100~300		収穫14日前まで			
食用ミニバラ	300ml/10a		10	収穫前日まで	常温 煙霧	
茶	チャノミドリヒメコバヤ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ、 チャノガサガサバダニ、チャノホコリダニ、シャクトリムシ類、 チャノコカクモンハマキ、マダラカサハラハムシ、チャトゲコナジラミ	*5 150ml/10a	6	収穫14日前まで		
食用ぎく	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、 ヨトウムシ類、ハダニ類、オオタバコガ、アワダチソウゲンバイ	100~300	収穫3日前まで	2回		
きく(葉)	ヨトウムシ類、ハダニ類、オオタバコガ、アワダチソウゲンバイ	100~300	収穫7日前まで			
きく	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類、ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ	150~300	発生初期			
ストック	ヨトウムシ類、ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ	200~700				
花き類・観葉植物 (きく、ストックを除く)	クサアナアキゾウムシ	200~700	2回			
しきみ	クサアナアキゾウムシ	100~300		収穫14日前まで		
アザレア	チャノホコリダニ	100~300	2回			
なんてん(葉)	アザミウマ類	100~300		収穫14日前まで		
みかん (温室・ガラス室等密閉できる場所)	ミカンキイロアザミウマ	*5 300ml/10a	10	収穫前日まで	常温 煙霧	
ぶどう (温室・ガラス室等密閉できる場所)	チャノキイロアザミウマ	*5 150ml/10a	6	収穫14日前まで		

\*1 花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する  
\*2 花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで \*3 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで  
\*4 無人航空機による散布 \*5 使用量

太字の箇所は2021年12月22日現在、適用拡大事項。

水産動植物(魚類・甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用  
する場合は、飛散しないよう特に注意してください。使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、  
河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

- ★使用前にはラベルをよく読んでください。★ラベルの記載以外には使用しないでください。★小児の手の届くところには置かないでください。
- ★使用後の空容器等は園場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。★防除日誌を記録しましょう。

殺虫剤分類 13

△効果・薬害等の注意

- 使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出してください。
- ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、以下のことに注意してください。
  - ①専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。
  - ②特に常温煙霧装置の選定及び使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
  - ③できるだけ日中の煙霧は夕方、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態にしてください。
  - ポルドー液と混用する場合は凝集することがあるので、本剤を調整した後にポルドー液と混合してください。
  - ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布してください。
  - 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
  - 本剤は植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の表裏に十分に散布してください。
  - きゅうり・なす・はくさい・だいこん・非結球あぶらな科葉菜類・なばなおよびセルリーの幼苗期に使用すると薬害を生じることがあるので注意してください。
  - ピーマン・とうがらし類に使用する場合、品種により葉に褐点などの薬害を生じることがあるので、予備散布により薬害のでないことを確認してから散布してください。
  - かき(刀根早生など)の着色期の散布は薬害を生じるおそれがあるので、使用しないでください。
  - すいかに使用する場合は、葉に薬害を生じることがありますが、その後の生育に対する影響は認められていません。
  - にがりの幼苗期には薬害を生じるので、定植前には使用しないでください。定植後ににがりに使用する場合は、葉に灰褐色などの斑点の薬害を生じることがあるので、予備散布により薬害のでないことを確認してから散布してください。
  - 西洋かぼちゃ(黒皮栗・青皮栗・えびす・雪化粧・みやこ・黒皮甘栗・栗味・栗マロン・旁香等)には薬害を生じるおそれがあるので、使用しないでください。
  - ほうれんそうに使用する場合は、葉に白化などの薬害を生じるおそれがあるので、必ず使用時期を守って使用してください。
  - ばら・食用ミニバラに本剤を初めて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
  - カーネーションへの散布は薬害を生じるおそれがあるので、使用しないでください。
  - シクラメンに使用する場合は、新葉に薬害を生じる場合があるので、葉の出しを事前確認してから散布してください。
  - 周辺の作物にかかると薬害を生じる場合があるので、かからないよう十分注意して散布してください。
  - 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようしてください。
  - ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
    - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合は使用しないでください。
    - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用を控えてください。
    - ③関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
    - マルハナバチに対して影響があるので注意してください。
    - 本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意してください。
      - ①散布機種の散布基準に従って実施してください。
      - ②散布機種に適合した散布装置を使用してください。
      - ③散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
      - ④散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
      - ⑤散布終了後は以下の注意事項を守ってください。
        - ・使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
        - ・使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。
        - ・散布終了後、機体の装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄液は河川等に流さないでください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

△安全使用上の注意

- 医薬用外劇物。取扱いは十分に注意してください。
- 誤って飲み込んだ場合には吐き出さず、直ちに医師の処置を受けてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の処置を受けてください。
- 散布等の作業の際は、防護マスク・手袋・不浸透性防汚衣などを着用してください。作業後は手足・顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管してください。

※この資料は2021年12月現在の知見に基づき作成したものです。

